（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

資料１

１　（仮称）生田緑地ビジョンアクションプランの概要

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン（以下「アクションプラン」）は、令和６年５月に改定した生田緑地ビジョンに示した施策の基本方向に基づく短・中長期の具体的な取り組みを記載し、着実に実施していくための行動計画を示すものです。

２　生田緑地ビジョンの概要について

（１）概要

生田緑地ビジョンは、生田緑地にかかわる多様な主体が共通の想いを持って活動や取組を進めることができるよう、誰もが共有できる生田緑地のめざすべき将来像を示すものです。

（２）基本テーマ

「支えあう、自然と人々の営み」

（３）基本的考え方

「緑地の存在効用（保全）と利用効用（利用）の調整により、　両者が好循環するしくみ」

（４）基本理念

『豊かな自然・文化・人・まちが共に息づき
みどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現』

（５）計画期間　概ね１０年

（６）資源ごとの将来像

基本理念の実現に向けた、資源ごとの将来像を次のとおり示

（７）施策の基本方向の策定に向けた視点

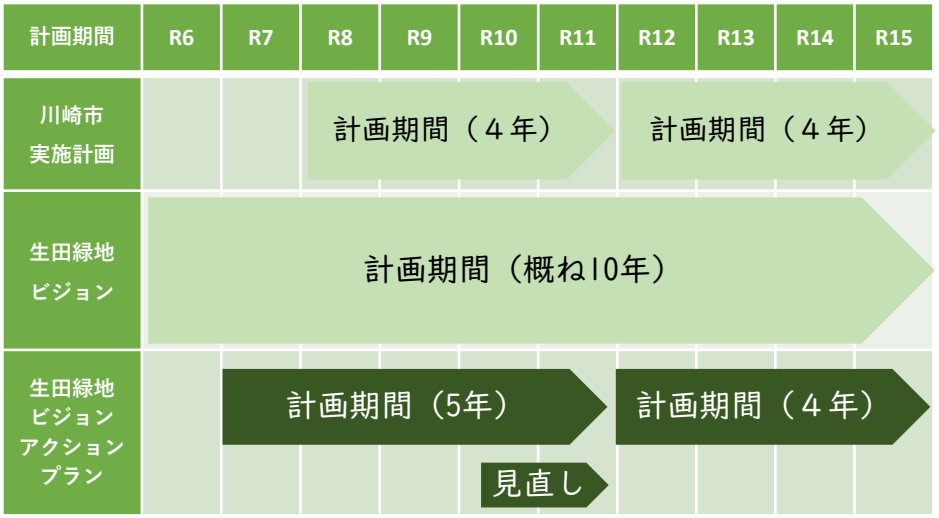
①生物多様性を未来に引き継ぐ
②新たな価値創出や社会課題解決のための場となる
③しなやかに使いこなす
④多様な主体との連携・協働・共創
⑤公園DXの推進
⑥安全・安心の実現
⑦ダイバーシティ＆インクルージョン
⑧防災機能の向上

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

３（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン（案）について

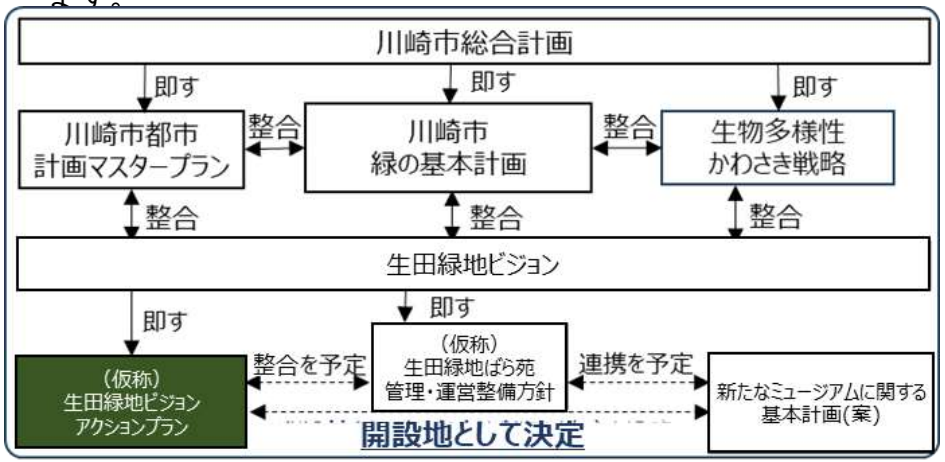
（１）　計画期間

アクションプランは、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5か年の計画です。



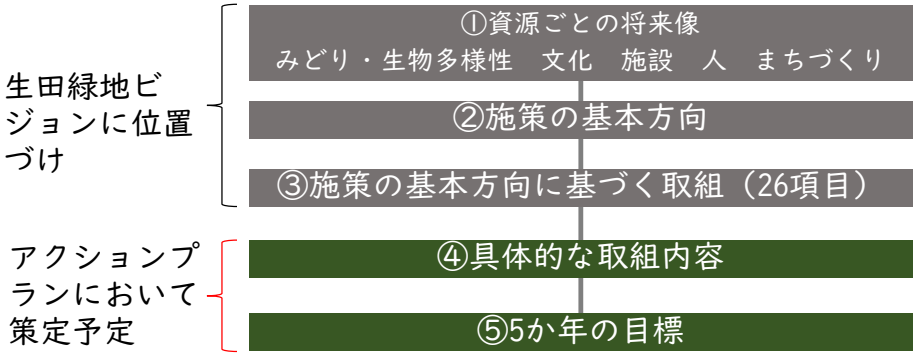
（２）　上位・関連計画における位置付け

アクションプランと行政計画との関係性を次のとおり示します。



（３）　策定範囲

アクションプランの策定範囲を次のとおり示します。



（４）　構成（目次イメージ）

アクションプランの構成を次のとおり示します。

第１章　　生田緑地ビジョンの概要
第２章　　生田緑地ビジョンアクションプラン
　１　概要
　２　計画期間
　３　上位・関連計画における位置付け
　４　生田緑地ビジョンアクションプランの取組イメージ
　５　施策の基本方向に基づく取組
　（１）みどり・生物多様性
　（２）文化
　（３）施設
　（４）人
　（５）まちづくり

記載項目
・具体的な取組内容
・5か年の目標
・イメージイラスト・写真等の活用

4　前回の委員会におけるアクションプラン策定に向けた意見について

薬袋委員

前回の委員会の意見

①新しいミュージアムの開設が決まってからコントロールすれば良いかもしれないが、**「オーバーユース」や「十分に自然環境に配慮した計画」になるようビジョンの中でもう少しきちんと書いておくべき**。

②生田緑地東地区の整備の考え方における「賑わい」につながるような「様々な交流の場」という表現は見直すべき。例えば、社会教育の場、学習の場、緑の中での、自然の中での学習の場ぐらいではないか。

③課題解決に向けて連携するとか、未来の担い手づくりをするだけではなく、その生態系をきちんと意識して、**みんなが緑を支えるエコロジカルネットワークづくりについても概念的に描き込んで欲しい**。

④生田緑地の中で閉じるのではなく、周辺の緑、多摩川も含めて、自然環境、農地とかきちんと外と連携するということがわかるような表現が必要。

佐藤委員

前回の委員会の意見

①アクションプランの資料には、公園DX、ICT、IoTといった用語が分散的に記載されている。**情報技術活用について重要な項目であり、まとめて記載**する（例えば、施設の分類の中など）ことが可能か検討してほしい。**RFIDやセンサー、ドローンなど新しい技術、カメラ映像やスマートフォン位置情報などビックデータの活用や、産官学民連携など具体的な記載ができることがないか検討してほしい**。

②前回委員会資料４（Ｐ７ページ）に安心・安全なまちづくりや自然災害時等に緑地が果たすべき役割について記載があるが、**公園内の災害リスク、災害時の公園の役割について具体化してほしい**。

③**どのように進めるかについても産官学が連携して検討すると良い**。

④**本質的な部分での情報収集と発信を行うことが重要**。また、**ビッグデータの活用についても記載があると良い**。

⑤安心・安全なまちづくりや自然災害時等に緑地が果たすべき役割について記載があるが、防災機能の定義や内容についてもう少し具体化していき、特に**公園にできる防災機能を検討すると良い**。

倉本委員

前回の委員会の意見

①生態系は、生物学の言葉で言えばランドスケープ。生態系は、雑木林だけでなく、草原、水田、畑、背の低い草地、背の高い草地、ため池、小川全部集まって里山である。精緻に細かい生態系を管理するだけでなく、全体をどう見ていくかを考えるプロジェクトを考えていたが、中断している。この部分を考える自然会議を今後も存続する必要がある。

②マネジメント会議のあり方を見直して、自然の部分について自然環境保全会議に全て任せるのではなく、必要に応じて、マネジメント会議プロジェクト会議を作って、そこで検討するというやり方をした方が良い。

③自然環境の保全については、自然が好きな人だけの問題ではなくて、生田緑地に関わっているみんなの問題と思うので、自然環境保全会議で全部決めるのではなくて、マネジメント会議全体で提言をするべきだと思う。

④会議の運営について、新しい人が入ってきたらまた時間がかかっても最初から話をして、なぜこうやっているのか分かってもらうというようなことを繰り返すことで、生田緑地の自然の成立ちやみんなが目指していることが理解できるのではないか。

⑤生田緑地の樹木は大きくなっているので、伐採費用等が嵩む。これに対応した仕様書や歩掛をつくることが必要。

倉本委員

前回の委員会の意見

⑥生田緑地植生管理計画を策定して１１年経つが、自然環境保全会議に入っていない団体も含めて計画自体は知っているが、順応的に植生管理計画を運用している団体はほとんどない。もう一度計画の背景になる**生田緑地全体がどういう自然で、これからどうするかを考え、今度は市民だけではなく、市民がやること、行政(業者)がやることを決めることが必要**。

⑦**里山の管理活動は、植物の名前がわかって、生態学がわかる職員が、作業をするときに常に立ち会って、この植物は残す、この植物は抜く、ということを指示しながら作業をすることが必要**。指定管理者の業務に盛り込み運用する手法もあるが運用できるか確認が必要。

⑧**皆伐更新をするためには、**標準的な伐期は15年だが、15年でもう一度伐採するのか、伐採しないと今と同じようになってしまうので、**何年ごとに伐採するのか考える必要がある。**

⑨桜ケ丘公園では、わずか0.3ヘクタールに30人の人がかかわっています。作業だけをするのではなくて、**順応的管理や、いろいろな勉強や、雑木林にかかわる文化を意識してやっていこうとすると、30人でわずか0.3ヘクタールしかできない。生田緑地では市民だけではできない**。

金子委員

前回の委員会の意見

①「賑わい」のキーワードについては、アクションプランにおいて検討するということだが、丁寧な記載を考えて欲しい。

②ミュージアム立地に関してオーバーユースの部分を丁寧に検討するにあたっては、どこで議論するのか丁寧にするべき。

③生田緑地は何より自然がとても大事なところ。倉本委員が作成された資料の中に目標とする自然という言葉があるが、かなり広域なエリアで、それぞれのエリアで目標とする自然というのがどんなものかということを明確に示した方が良い。生態学的な面もあれば、景観的な面もあると思うが、それをみんなが共有することがとても大事。専門的な見地から示すものも大事だが、市民レベルの言葉で示すものも大事。いろいろな方が関わるので、むしろ**専門家は専門家として、市民は市民としてそれを理解し、自分が何ができるかということを考えることが目標とする自然をきちんとわかることにつながる**。

③アクションプランの取組内容の中にいくつか**指定管理者等という主体が入っているのはなぜか確認**したい。

垣内委員

前回の委員会の意見

①生田緑地ビジョンと分けたかたちでアクションプランをつくるということは、特に今、ミュージアム構想がしっかり固まっていない中での策定ということで、現実的であり、しかも実行性があって良い。

②新たなミュージアムの立地に対する懸念にきちんと答えられるよう、アクションプランにはできるだけ活動詳細も書き込んでいただき、不安を払拭して欲しい。

③生田緑地と一体化したミュージアムの姿を目指すにあたり、生田緑地とミュージアムの関係性をどのように決めていくのか、様々な利害関係者と検討のプロセスをどのように共有していくのか大事

④新たなミュージアムの構想には、まちなかミュージアムの位置づけもあり、ミュージアム本体だけで完結するものではないので、外とのつながりを生み出す効果も期待できる。こうしたこともアクションプランの中で具体的に示すことができればと思う。

⑤生田緑地内の施設間のアクセスと同時に、周辺文化財へのアクセスについても計画的につなげていくことで市民の方々の理解も進むのではないかと期待している。

⑥文化財保護に関しては教育委員会もかかわることになると思うので、もう少し幅広く庁内検討する体制を考えて欲しい。

橘委員

前回の委員会の意見

①アクションプラン（案）については、生田緑地の既存の取組に参加している市民が固定化していることが課題とされており、既存の市民以外も参加してくれるような企画が必要。

②「自分事」になりきっていないけど、生田緑地のことを大切に思ってくれるかもしれない方にアプローチするような声かけが必要。参加する可能性のある方へのアプローチの仕方には、あなたのことをまず教えて欲しいというお声がけが大事と思います。そのアプローチの後に、生田緑地に対する気持ちであるとか、具体的な考えを聞き出すというような、そんなアプローチがいいと思っています。今までと少し違うアプローチをすることで、多様な方々に今先生方にいただいているような意見をいただけるような場を開けると良い。

③これまでアプローチできていなかった生田緑地に関係ない人とつながる機会をつくり、彼らが関わってくれるようなことをこのアクションプランの検討段階からスタートできたら良い。

５　全国都市緑化かわさきフェア「生田緑地シンポジウム」の開催状況

開催日　令和６年１０月２７日（日）　１０時～１２時４０分(交流会　閉会後～14時)
場　所　青少年科学館　２階　学習室　**参加者**　３３人（登壇者含め５０名）

①メッセージ　元生田緑地マネジメント会議アドバイザー涌井 史郎氏(造園家　東京都市大学特別教授)

・生田緑地ビジョンは、生田緑地に関わる方の熱い想いをまとめるために作ったと認識している。

②基調講演　生田緑地マネジメント会議会長・向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会事務局長 松岡 嘉代子氏

（登壇者と生田緑地の関係）
・生田周辺の森・畑・田んぼの風景の中で生まれ育った。結婚後に一度生田緑地から離れ、帰ってきた様変わりした風景に驚いた。自然と引き換えに開発が進み、８つの小学校ができていた。
（生田緑地の概要）
・東京緑地計画の景園地「谷津遊園」「花月園」「向ケ丘遊園」の一つ
・１９４１年都市計画緑地第１号として生田緑地が登録（等々力緑地も同時）　面積は１７９．７ha
・「外来種を持ち込まない・希少種を持ち出さない」を生田緑地憲章にしている
・国際的施設が多く位置している。（ゴルフ場…在日米軍の接待用に設置、ばら苑、民家園　…全国有数の棟数、宙と緑の科学館…大平氏の開発によるプラネタリウム「メガスター」、岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム等）
・イベントが豊富
・多くの市民団体が活動
（生田緑地の課題）
・「生田緑地ビジョン」内では緑地の保全（存在効用と利用効用）、ばら苑について現況と新たなミュージアムの候補地として触れられている
・ナラ枯れ　伐採後の処理や利活用が求められている

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

③基調講演　川崎市公園緑地等整備計画推進委員会委員・生田緑地マネジメント会議前会長
倉本　宣氏(明治大学農学部教授)

・土石流が発生しやすい斜面も多様な自然環境の一つである。そういった箇所に生息する生
き物や植物も存在するため、緑地外に影響のない範囲で、緑地内で土石流のような変化を許
容できる空間があることが大事。
・**色々な生態系の集まりが「Landscape」。雑木林、田んぼ、萱場、ため池等の集合体が里地里山で、人が自然に働きかけてきたもの**。

・里地里山は、昔は、経済→社会→環境のピラミッドで維持されていたが、現在は、「環境→社会→経済のピラミッドになっており、環境を保全することを目的化しなければ守られない。そういった意味で生物多様性保全に金銭的価値を認める動きが重要である。
・**生物多様性保全には、種へのアプローチより、ランドスケープへのアプローチが大事**
・**都市公園では、変化を許容しないことが一般的だが、時間的な変化を許容することが大事**
・**自然環境を保全するにあたって、そこで活動する市民ボランティアは、異動がないことがメリットであると伝えてが、新しい人が入ってこないことは課題になるかもしれない**。

④基調講演　川崎市公園緑地等整備計画推進委員会委員・生田緑地マネジメント会議元会長
薬袋奈美子氏　（日本女子大学建築デザイン研究科建築デザイン専攻）

・「緑を守る」ことは、「生き物を取り巻く私たちの行動」を含む
・　緑は都市計画の中に不可欠であり、生田緑地も「都市計画施設」である
・「里山」の変化は平成の利益追求社会が生んだ歪とも関係
・今後も「ボランティアのやりがいだけに頼る」ことへの疑問
・保水力を街の中でどう維持していくのか
・**令和の時代になり、「脱炭素」「SDGｓ」への動きが盛んに。この波に上手く乗って、人々が「使って、支えたくなる仕組み」を構築すると良い。**

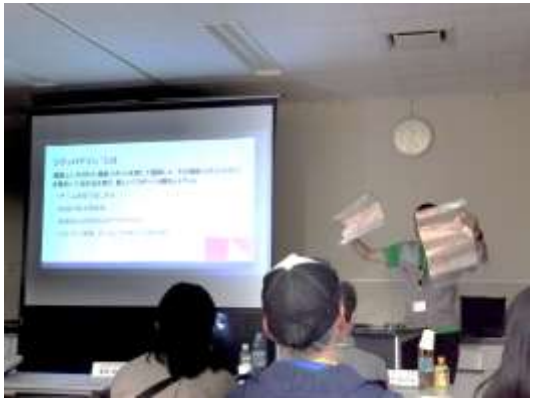
・２０１１年に生田緑地ビジョンを策定し２０２４年に生田緑地ビジョンを改定した。**生田緑地の価値をより多くの人と価値を共有するべきで、定型ではいけない**。（防災は、災害の歴史を知ることで減災につながっている。）

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

●生田緑地ビジョンの実現に向けて　９組が新しい活動を多様な団体が提案

団体名	実施時期	キーワード	企画名
かわさき色ものがたり	春	かわさき20色の折り紙、ワークショップ	生田緑地で再発見！ かわさきの色ワークショップ
日本女子大学	未来	生田産メンマ、伐採塩漬ワークショップ、竹の活用	生田緑地産メンマをつくる！
シャボン玉オヤジ	春	100人のこどもとシャボン玉、ワークショップ、ドローン撮影	世界へ届け！100 人のシャボン玉で生田緑地を〝し泡せ（幸せ）〟で埋めつくそう！！
住民本屋～旅する本棚～	春	住民本屋、駅前本棚、リアカー	住民本屋～お散歩本棚～
多摩区こどもの外遊び交流委員会	春	①思いっきり外遊び！　②みんなで話そう！　考えよう！　生田緑地と子どもの外遊び	生田緑地で外遊びを楽しもう！　話そう！　考えよう！
日本女子大学	未来	柑橘植樹、エッセンシャルオイル、アロマ、ルームスプレー、ワークショップ	生田緑地発の香りをつくる！
日本女子大学	未来	生田産材木質ペレット、ストーブ、ボイラー、販売、市内の資源利用の拠点	生田緑地を木質資源活用の中心地に！
「緑化フェア」プロジェクト会議	春	気球	「空から生田緑地を眺めてみたい」熱気球体験イベントの開催
生田緑地の雑木林を育てる会	春	シティロゲイン、川崎北部、まちとひとのつながり、スポーツ×観光	生田緑地から出かけよう！川崎北部シティロゲイン
生田緑地の雑木林を育てる会	春	生田緑地ミニロゲイン、写真の場所探し、撮影スポット	生田緑地ミニロゲイン（生田緑地の写真のポイントを探して歩こう）
生田緑地の雑木林を育てる会	春	週替わりクイズ王選手権　○×移動レク	生田緑地クイズ王選手権大会

各団体の発表状況



（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

6　ビジョンの周知及び自分事に向けた取組「生田緑地絵図の作成」

生田緑地ビジョン・アクションプランを誰にもわかりやすく自分ごとにするため、ワークショップ形式及び個別ヒアリングにより、生田緑地の様々な活動や生き物を絵図として描きます。

【対象】　市民誰でも（生田緑地マネジメント会議会員＋興味のある市民）

【進め方】

第１回(12月)
エリアに別れて、
アイディアだし

→

第２回(1月下旬)
下書きについて
意見交換

→

第３回(2月下旬)
完成・共有

【他都市の事例】

現況図

里山絵図

7　公園DXの推進に向けた産官学による取組

みどり・生物　　公園DXの推進　　多様な主体との連携・協働・共創

生物多様性の保全をテーマにした取組として、ICT技術活用した情報収集や発信・市民の知的好奇心を活用した科学的活動の推進に向けた取組を進めます。

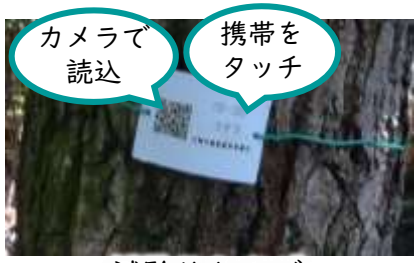
RFID(無線式ICタグ)／二次元コードを活用した樹木点検や施設管理、グリーンアドベンチャーへの応用

【活用技術】　RFID(無線式ICタグ)／二次元コード

【概要】　遊園・登戸や生田緑地をフィールドに情報技術活用の研究教育活動を行う専修大学ネットワーク情報学部まちづくりDXラボ、RFID（無線式ICタグ）／二次元コード等の技術を持ち適用領域の拡大を検討する㈱サトーと協力した産官学連携体制

取組状況

令和６年５月	専修大まちづくりDXラボにおいて、市が生田緑地ビジョンを紹介。ラボから生田緑地における活動提案等を受ける（グリーンアドベンチャーのデジタル化等）。
７月	まちづくりDXラボの中間発表。大学、地域の活動団体、㈱サトーと生田緑地について意見交換。
８月	㈱サトーショールームにて要素技術の紹介や意見交換。
９月	公園（屋外・樹木）におけるRFIDの動作確認を実施。
10月	緑化フェアにおいて取組をポスター展示。現地にタグを貼り付けアンケート調査実施。



試験的なタグ

スマホでタッチ

現地設置状況

秋フェア開催時の発信状況

【今後の取組・スケジュール】

管理者の樹木の点検におけるデータベース化の効率化やグリーンアドベンチャーのデジタル化などへの応用が考えられる。緑化フェアを活かした取組のＰＲも実施している。

10月 秋フェアで取組を発信 → 11月～2月 具体的な取組を検討 → ３月 春フェアに発信

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

８　施設の魅力向上に向けた生田緑地ばら苑の再整備に向けた取組

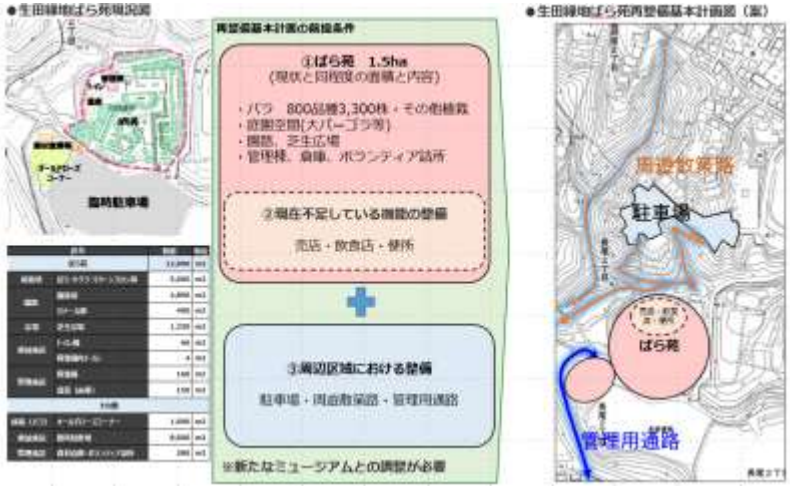
施設　　公園DXの推進　　多様な主体との連携・協働・共創

向ケ丘遊園跡地利用計画や新たなミュージアム構想とも連携しながら、生田緑地ばら苑の再整備を進め、東地区の魅力を最大化する。

生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた取組

【概要】　生田緑地ばら苑の再整備に向けて、ばら苑ボランティアや民間事業者、国内有数のばら苑のガーデンナー等へヒアリングを行い、新たなばら苑の方向性や整備基本計画等を整理しています。また、新たなミュージアム構想等とも連携しながら、、東地区の魅力の最大化に向けた検討を進めています。

【取組状況】令和6年5月　生田緑地ばら苑において、ガーデナーのトークイベント＆ワークショップを実施
8月　生田緑地ビジョンアクションプランの検討についてまちづくり委員会に報告
（ばら苑、新たなミュージアム、オープンスペースについて一体的に検討する）
９月　新たなばら苑の方向性についてばら苑ボランティアと意見交換（～意見募集中）



生田緑地ばら苑の整備基本計画（案）

項目		現状	考え方（案）	具体的な取組例
事業手法	整備	－	民間事業者の自由で柔軟なノウハウを最大限活かせる手法を導入	DBOやP-PFIの採用
	管理運営	委託		指定管理者制度／設置管理許可制度の採用
料金体系		無料	持続的な運営の基礎的な財源及び民間事業者のインセンティブとして有料化の可能性を検討	利用者による一部負担を検討
開苑期間		春・秋の年45日間の開放	施設の価値の最大化や有効活用の観点から通年開放を目指す	通年開放（夜間は閉鎖管理を想定）
管理運営	飲食等	キッチンカーによる提供	来園者のへのサービス向上や通年開放に対応した施設を導入	カフェやレストランの設置／ばら苑らしい飲食／来園者増に向けたサービス
	講習会等	開園期間中（ばらに特化）	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	通年における実施（園芸全般など講習内容の多様化）
	ワークショップ	－	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	ドライフラワーづくりやばらの香水づくりなど気軽に参加できる内容の充実
	ボランティア	様々な管理作業を実施	ばら苑の魅力向上に向けて、ボランティアのすそ野を広げ、育てる仕組みを導入	ガーデナーを配置し、技術向上の機会を設けた仕組みづくり

生田緑地ばら苑の民間活力導入に向けた考え方（案）

【今後の取組・スケジュール】
緑化フェアにおける取組等も踏まえ検討を深度化するとともに、新たなミュージアムと連携した検討を実施。

１１月
一体的な検討に着手

→

１１月～2月
サウンディング調査の実施

→

３月
アクションプランに反映

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

９　まちづくり「向ヶ丘遊園駅から生田緑地までのアクセス路の魅力向上」に向けた取組

まちづくり

多様な主体との連携・
協働・共創

向ケ丘遊園跡地利用計画や新たなミュージアム構想とも連携しながら、生田緑地ばら苑の再整備を進め、東地区の魅力を最大化する。

向ヶ丘遊園駅から生田緑地までのアクセス路の魅力向上

【概要】　最寄り駅から生田緑地までの移動時間を楽しみながらアクセスしてもらうため、地域の多様な資源との連携を検討する。

【取組状況】　令和6年　4月～　（仮称）Kawasaki Green Lab.　向ヶ丘遊園駅南口花壇の取組
全国都市緑化かわさきフェアに合わせておもてなしの花壇づくりを町内会が実施

向ヶ丘遊園駅前

向ヶ丘遊園駅菅生線（花壇づくり）

【今後の取組・スケジュール】

緑化フェアにおける取組等も踏まえ、アクセス路の魅力向上に向けた持続的取組を検討

現在
フェアに合わせた取組

→

11月～2月
持続的な取組に向けた検討

→

３月
アクションプランに反映

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

１０　みどり・生物多様性「生田緑地植生管理計画の見直し」に向けた取組

みどり・生物多様性　生物多様性を未来に引き継ぐ　多様な主体との連携・協働・共創

ボランティア団体が皆伐更新・ギャップの活用を含めた植生管理を継続していることから、その取組を知ってもらうための仕組みをつくり、他の地域における活動の展開方法を検討する。

生田緑地植生管理計画見直しに向けた取組

【新たな仕組み】　みどりを支える新たな担い手づくりと支援する仕組みづくり

【概要】　生田緑地植生管理協議会市民部会（事務局　かわさき自然調査団水田ビオトープ班）が作成を始めた植生管理計画について市が管理することになったが、運用できていないため、既存資料の整理に着手する。

【対象範囲】（例）稲目谷戸の水辺と雑木林

【整理のステップ】

モデル既存資料の整理 → 市が運用できる計画に向けた課題整理 → 役割分担の確認 → 取りまとめ

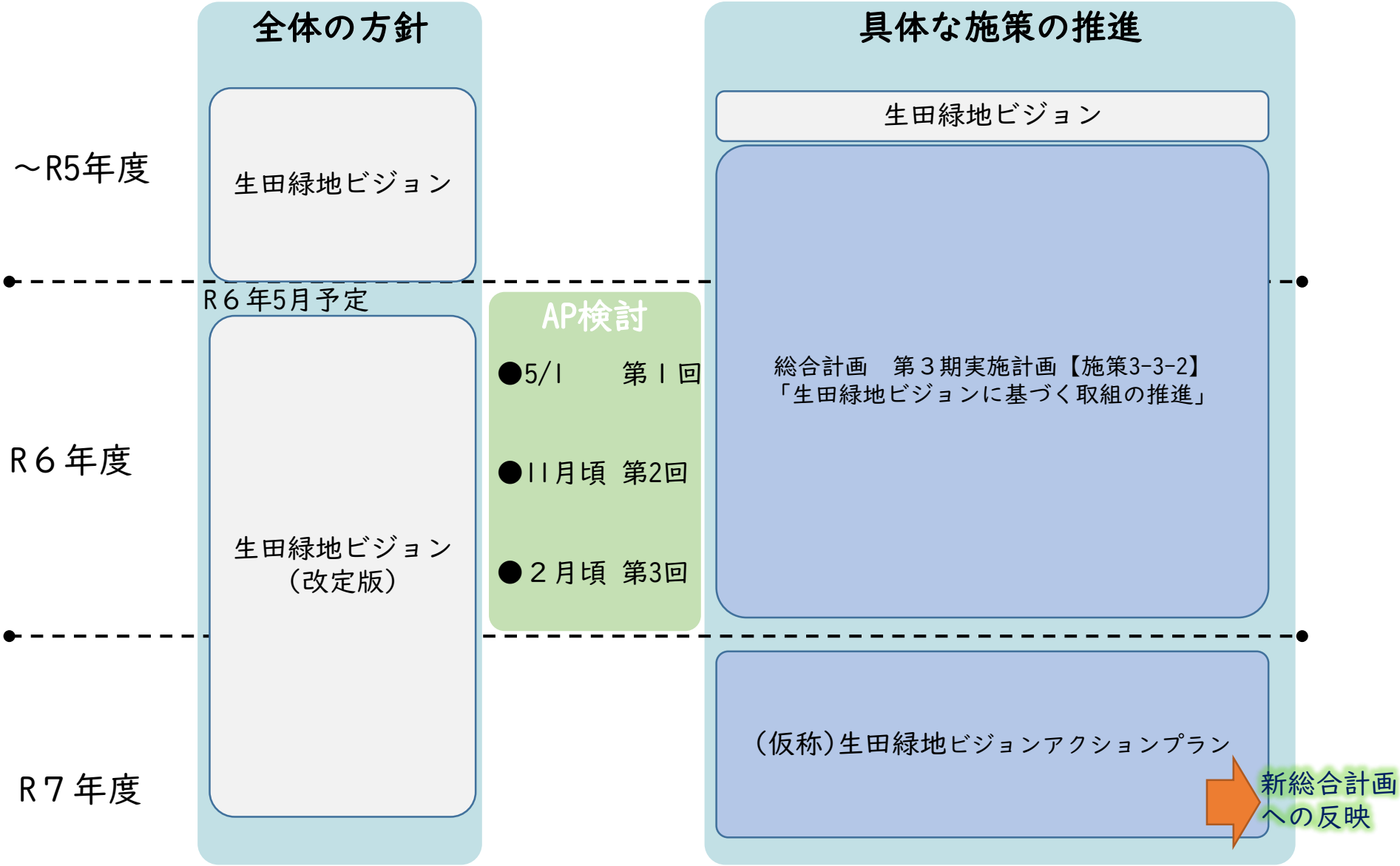
【既存資料の整理】

生田緑地自然の保全と利用方針	生田緑地植生管理計画	生田緑地植生管理プログラム
エリアごとの特性に応じた自然の保全及び利用の大きな方向性	植生を含む生態系の保全・育成を行うための具体的な管理の計画	植生管理作業を行うため、作業内容や時期、貴重種の情報

【今後の取組・スケジュール】

10月 ヒアリング → １１月 里山倶楽部に参加 → 12月～2月 既存資料の整理・追加ヒアリング → ３月 取りまとめ

（仮称）生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況

１１　スケジュール

●スケジュール